

# 岐阜県立岐阜各務野高等学校

## 令和4年度 第2回学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 岐阜各務野高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月19日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜各務野高等学校会議室  
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
- |       |        |                    |      |
|-------|--------|--------------------|------|
| 会 長   | 伊藤 浩   | 元各務原区長             |      |
| 副 会 長 | 苅谷 亜由美 | 各務原市立鶴沼第二小学校 校長    |      |
| 委 員   | 清水 宥希  | 蘇原中学校PTA会長         | (欠席) |
|       | 高島 邦枝  | 各務原商工会議所総務事業課 主査   |      |
|       | 寺中 直美  | 鶴沼西保育所 園長          |      |
|       | 長縄 康浩  | フェニックス総合クリニック 副医院長 |      |
|       | 並河 征之  | 株式会社 日本温浴研究所       | (欠席) |
|       | 林 克幸   | サン・ビジョンジョイフル各務原施設長 |      |
|       | 遠藤 賢児  | 令和4年度PTA会長         |      |
|       | 蒲 美佳   | 令和4年度PTA副会長        |      |
| 学 校 側 | 乙津 真由美 | 校長                 |      |
|       | 馬場 聖臣  | 教頭                 |      |
|       | 加藤 寛   | 教頭                 |      |
|       | 五十川 一也 | 事務長                |      |
|       | 佐々木 善隆 | 総務部長               |      |
|       | 鈴木 雅雄  | 教務部長               |      |
|       | 洞口 哲二  | 生徒支援部長             |      |
|       | 鹿野 知幸  | 進路支援部長             |      |
|       | 秋田 寛   | ビジネス科長             |      |
|       | 後藤 誠司  | 情報科長               |      |
|       | 小又 友樹  | 福祉科長               |      |
|       | 新垣 朋洋  | 記録係                |      |

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 生徒の様子について

意見1: 全体的に落ち着いて授業に取り組めており、「生徒に考えさせる」授業が展開されて非常によい。教師と生徒のとの呼吸が合っており、授業の流れができていた。

意見2: 小グループでの主体的な学習の取組が充実していた。「隣同士で相談してください」との教師からの声かけで生徒たちが活気づいていた。

- 意見3：教室の入り口に大きなカバンがあることが気になった。収納場所を設置するなどの検討をするとよい。
- 意見4：生徒達が主体的に答えを確認し合う姿を見て、自分の思いを伝えづらい生徒でも、授業に生徒同士の関わる時間を取り入れることで、コミュニケーション能力の向上にもつながる。
- 意見5：パソコン室以外でも、タブレットを使った授業が行われており、学校現場のICT化を目にすることができた。

## (2) 各学科の取組の中間報告について

- 意見1：各務原くらし委員会との取組では、人に伝えるということに重点を置き、進められていた。各務原パークブリッジで行われたプレゼンテーション発表においても、人にわかりやすく伝えるための学習が進められ、とてもよい。
- 意見2：「わかりやすい授業が行われているか」のポイントが上がっていた。授業において生徒が「わかる」と思えることが、自身の自己肯定感にもつながっていくはずである。
- 意見3：コロナが落ち着いてきたので、実習や外部講師を招いての授業が充実してきている。実習など現場で学ぶこと、現場の生の声を聞くことが一番身になり、コロナの状況をみながらそのような機会を増やしてほしい。実習をするだけではなく、実習後に販売活動や発表の機会があり、インプットとアウトプットが充実している。
- 意見4：3学科合同の取組では、それぞれの専門性が高いからこそ、いろいろな視点を取り入れることが大切であり、いろいろな視点によって多様な考えがあることを知ることにもつながるため、新しい学びの場になる。
- 意見5：おじいちゃん・おばあちゃんのためのスマホ講習会など、人の役に立てたと実感する体験や、地域に貢献できたという体験が生徒の働く意欲にもつながる。
- 意見6：福祉科での幼児向けの紙芝居の制作では、若い発想で新しい魅力的なものを作してほしい。
- 意見7：アンケートの中で「3年生の4月の段階で進路が固まっていないのが課題」とあるが、働き方や働く場所が多様化する時代において、「迷う」ことも一つの選択肢である。なぜ進路を決められないのかを理解する必要がある。進路を迷っていることも尊重すべきである。

## 6 会議のまとめ

- ・新学習指導要領に対応した授業改善を進めていく中で、今回は1年生全学級の授業を参観した。ICT機器の活用や協働学習など、生徒が主体となって学習を進める姿が好評であった。今後は外部への実習を進めるなど、習得した知識や技能を活かすことができる地域と連携した活動に力を注いでいく。
- ・5月から7月までの学校運営の推進状況についてまとめた冊子を事前に渡し、今回の協議会では、8月から10月までの推進状況について説明を行ったことで、学校の取組について理解が得られた。